

## 週日（聖マリアの誕生の祝日）の説教

金 大烈 神父 2010年9月8日（水）

### 《マリア様とヨセフ様の生き方を模範に》

主の平和

今日は、マリア様がイエス様を生んだことを祝う日ですか、それとも、マリア様が生まれた日、つまり誕生を祝う日ですか。マリア様が生まれたことについて説明している聖書の箇所はないでしょう。これは伝承によるものです。

私達には、聖書に書かれてない事柄でも信じていることが幾つかありますよね。例えば、マリア様が被昇天されたことは、聖書には一言も書かれていないのですが、教会は長い間信じるべき信仰として来ました。その中で伝承は、はっきり証拠を人の前にはだせないけれども、昔々から伝わっている美しい話、そして美しい話を超えて何か信仰的な靈的体験によって、これは信じるべき信仰として教会が定めます。その中の一つがマリア様の誕生を祝うことです。

マリア様はこの世にいらっしゃった方なので、生まれた日があるでしょう。しかし、それを私達は具体的には分かりません。

マリア様の誕生を祝う一番大きな目的は、マリア様を通して救いの歴史が具体化され、実現されたことを感謝するためです。今日その誕生を祝う私達がまた考えなければならないのは、彼女の誕生から始まる色々な苦しみの道、結局最後まで人間的には「ああ、よかったなあ」と言えることが一回も無かった人生についてです。マリア様のその苦しみを通して救いの道が開かれた事を感謝する気持ちになりましょうと言う意味です。

さあ、とにかく今日、皆様がよく目にした箇所が読まれました。今日の福音（マタイ 1・18-23）の主人公は「マリア様とヨセフ様」です。マリア様はある意味でいつも表に出て来ますが、ヨセフ様はいつも幕の後ろに、見えない所でちょっとだけ説明される方です。しかし、マリア様が色々な苦しみを全部乗り越えて、ご自分に与えられた使命を果たせたその力は、後ろから見えない所で支えたヨセフ聖人の心がなかったら不可能だったと思います。今日の話も同じですよ。ヨセフ様のことを現す一つの言葉は、『夫ヨセフは正しい人であったので』いつもこのように表現されます。「正しい人であったのでマリアのことを思って簡単に表ざたにするのを望まず」と言う表現があります。どのような方であったかは、私が何回も説明して来ましたが、聖書の中で、ヨセフ聖人が話した内容が書かれている箇所は一節もありません。ですから、ヨセフ様がどんな性格の人かと判明することは不可能です。ただ、ヨセフ様がこのようにしたと言う説明を聞いて「ヨセフ様はこのような方だったのかなあとか、このような性格の持ち主だったかも知れない。」と想像する方法しかありません。私はマリア様を思い浮かべると、いつも自然と黙想出来るのはこのヨセフ聖人のことです。

皆様、うちの教会にもどこの教会にも、またどんな共同体にも色々な性格がありますよね。本当に

さまざまな性格が一つの共同体を構成しているわけです。うちの家族をみても、気軽に人々の前に立ってものを言うタイプの人もあります。しかし、司祭の目で見たら、いつも見えない所で動いている人々もいます。そして、分かち合う時にも大きな声で分かち合うタイプの人もありますし、静かに散歩とか花を見ながら祈る人もいます。同じことを言っても人を気持ちよくさせて、それとなく悟るように導く人もいるかも知れないのですが、逆にいいことを言いながらも、人を気持ち悪くさせる人もいます。褒める時でもこれは褒めているのか、からかっているのか解らないような表現をする人もいます。しかし、このようなことが全部合わされて一つの共同体になっているのです。ある人はちょっとしたことで直ぐ傷ついてしまいます。ある人はちょっと心痛めてほしいけれども全然気がついてくれない人がいます。自らをちょっと治してほしいと言っていることさえ解らなくて、ただ一生懸命にその道を歩む人もいます。ですからその中で私達はがっかりする時もあるし、しょうがないなという気持ちになる時もあります。今笑っている方はどういう意味なのでしょう。「ああ、そういうことだったの、私もそんなふうだったかも知れない。」という意味ですか。(笑い)その笑っている方のために、誰かが痛んでいたかも知れませんが。(笑い)それが人生でしょう。いつも自分は正しい表現、正しいやり方をしていると思うかも知れませんが、「私によって傷つく人がいる、私のために信仰的な道に迷う人がいる」。こういうことは実際に仕方がないとしても、いつも起こり得ることとして意識しなければならぬと思います。

皆様、マリア様とヨセフ様の性格は違うと思いますが共通点もあります。それは、二人とも疑いました。マリア様は天使のお告げを受けた時に「私は男の人を分からないのにそんなことが起きるのでしょうか」と疑いました。ヨセフ様も「これは大変なことが起きてしまった」と思ったことです。しかしこの二人に通じることが二つありました。一つはどんな時も神様を信じました。二つ目は、死ぬ時まで神様に従順しながら与えられた道を歩みました。そして、この二人は自分に与えられた使命を果たせたわけです。

私達にも色々の違いがあります。この二人が見せてくれたように何があっても神様を信じましょう。イエス様の愛を信じましょう。色々な違いがあっても信じましょう。そうすれば何があっても乗り越えられます。そしてイエス様の御心を信じながら最後まで行きましょう。もしこの二つの心が私達にあれば、色々な違いがあってもやっぱり相手を見る目が変わると思います。よく考えてみて下さい。私達は自分が指差している大体の内容が、自分自身を指しています。ですから皆様、私が説教台で「皆様、これは悪い事じゃないですか」と話す話しの三分の二は私自身に対する話です。

皆様お互いに「非難」はしないで下さい。健康的な「批判」はいいのです。しかし、非難してしまうとその関わりの回復はできません。批判は何のためにするのですか。“批判はやり直すためにするのが批判です。”“非難は相手をだめにしつぶしてしまうものです。”お互いに違う所を認めながら、お互いに弱さを認めながら神様の御旨が何であるかをいつも量ろうとする心で動きましょう。

皆様、皆様の個人的な人生の中で、何回ぐらい人を赦した経験があるのでしょうか。しょうがなく

とする赦しではありません。それは誰がみても、あなたが赦さなければならないものではないのに赦して来た。そういう赦しを何回ぐらいして来たのでしょうか。子供さんにではなくて、普通の隣人に対してです。

このようなことを深刻に考えてみましょう。そうしながらもいつも赦しを求めている私達の浅い心、それも反省しましょう。本当に心を込めて人を愛したことがないのに、いつも愛されたい気持ちに囲まれている私達の浅い心も考えてみましょう。今日紹介されたマリア様の人生そしてヨセフ様の人生はそういうことを遥かに超えた生き方です。私達も二人が見せてくれた生き方を模範としましょう。

ありがとうございました。

派遣の前に

私達はひとつのオーケストラかも知れませんね。違う色々な楽器が一つの曲を奏でます。それぞれが違う音色で違う曲を演奏したらどうなりますか。指揮者は司祭である私かもしれません。皆様、一緒に綺麗なハーモニーを作りましょう。

ありがとうございました